
SaGa Frontier -RX3-

梅鳥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

S a G a F r o n t i e r - R X 3 -

【Nコード】

N 0 6 8 7 Q

【作者名】

梅鳥

【あらすじ】

まあ、サガフロンティア1年後ぐらいということだ。

レッドが敵となってしまふ。結構お約束なネタかもしれません。

ヒーローものには、ダークヒーローもお約束 というわけで…許してください。

闇の皇子 - プロローグ -

クーロン某廃ビル。

はあっ、はあ、はあ……っ！

大小様々な、足音が、コンクリートの階段の中、木霊し、彼らの心臓に狂想曲のリズムを刻ませる。

嘘だ、まさか、そんな……！

種族も性別も様々な彼らの心を驚掴む恐怖は、たった一つ。

リージョン世界の正義の機関、IRPOが、黒い噂を聞きつけたのは、つい最近だ。

《Dr・クラインが生きていた》

それをタレ込んだのは、なんと、ルーファス。非合法組織グラディウスの幹部である。

《彼は、廃墟と化していた旧ブラッククロス本部リージョンを再建、今度こそ自らを首領とする新組織を立ち上げた》

暗殺以外なら何でもする、と自他共に認める彼らが、正義の名に縛られる公的機関IRPOを鼻で笑い。

IRPOは、傍若無人に法を曲げる、グラディウスを目の敵にしているのは、周知の事実だ。

《……その名を“ダーク・ペンタゴン”》

そんな彼が、対立組織にわざわざ情報を与えに来たのは、他でもない。

「くっそ……！ まだ……かよ……っ！」

「ヒューズ、先輩……これぐらいで音を上げるなら……」

そっというレンも、引退を考えたら如何？ という、軽口すら続かない。

先を駆けるコットンが心配そうに、あとの四人を振り返る。

ドールもサイレンスも、僅かに息を上がらせていた。

《旧ブラッククロスの四天王を甦生し、更に強化を加え》

悪は、害虫よりも、しぶとい。

腕利きの彼らを戦慄させたのは、そういう事でない。

果てがないかと思えるほど長い階段は、階段と変わらぬ暗い闇と電灯のリージョンの、それでも少しは澄んだ風が、終わりを知らせる。

先を飛ぶラビットが、甲高い電子音を鳴らす d a n g e r !

五人を襲う衝撃波が、屋上入り口を破壊した。

素早い身のこなしで、回避し屋上に転がり出た彼らを、拍手が迎える。

「流石だな、IRPOの諸君…」

勿論、そのような戯言に反応する者は、皆無だ。無言で、それぞれの間合いを取る。

「…ピッ…Dr・クライン…のデーターと一致」

暗がりだが、ラビットが赤外線センサー及び声紋でDr・クラインを、確認した。

その時、新たな敵を感知したのか、ラビット稼動部が音を立てる。
「グラディウスといい、余程私達の動向が気になるようだな 息子よ」

「はい、父上…」

お前のような“悪”は五万と要る 自惚れぬな！ と、恫喝する声が、ヒューズの喉の奥で固まった。

それは、彼らの、知る……声。

本来、対立組織である彼らIRPOとグラディウスを『大人の事情など知らない』と、全て飲み込んだ、彼。
おっさん

「諸君に“我が息子”を紹介しよう」

《 “息子” を筆頭とした五芒星とした 》

低く垂れ込んだ雲が、限定された法の番人達を嘲笑うように割れ、悪夢を月光に晒す。

「我が闇の皇子　クライン・レッド！」

そこに、彼らの知る姿があるからだ　　ブラッククロスを壊滅に追い込んだ、彼らのヒーローが！

さしものルーファスも俄かに信じられず、かつての旅の仲間に告げたのだ。確かめてくれ、と。

「……声紋、虹彩…全て“レッド”と一致」

ラビットが各種センサーで、本人と確認する音声、空々しく人間達の耳を打つ。

「はっはっは…！」

クラインは、嘲りも顕わに哄笑した。

「…レッド！」

「レッド君！」

搾り出すような、祈るような、彼らの声に、青年は、

「お前らなんて知らねえよ…！」

冷たく、応える…このリージョンの暗い闇より沈んだ瞳。

また、月が隠れた。

正義の番人どもの苦悩が、見えずとも十二分に解る。

クラインは、この手に堕ちてきた息子を愛称で呼ばわった。

「顔見知りの誰かと間違えたかな？　“クリムゾン” 我が息子よ、我らが敵を薙ぎ払え！」

「…はい、父上…お前らに恨みは無いが、死んでもらう」

クラインの止まらぬ笑い声中、
音も無く抜かれたレッドの剣が、
禍々しい光を弾きながら
彼らを襲う。

「やめろ！ レッド！」
「キューー！！！」

それは、かつてのレッドを苦しめた、
復讐の炎に酷似していた

【続く】

闇の皇子 - プロローグ - (後書き)

健全シリアス。

こんなのレッドじゃない！と思われた方、ごめんなさい…

ヒーローもののダークに侵されたヒーローも結構お約束かな？
と、思っていただけたら…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0687q/>

SaGa Frontier -RX3-

2011年1月19日09時39分発行